

令和4年度 学校評価重点目標及び取組と評価指標

令和4年9月

本年度重点目標		具体的な取組	評価指標	判定基準	集計結果	自己評価	分析(成果)(課題と改善策)	中間評価
学びに向かう力の育成と学力向上	【学びが楽しい学校づくり】 体験活動や学び合いを基に、一人一人が活躍できる授業を目指し、学習意欲の向上と自己肯定感を高める。	・カリキュラムマネジメントの視点から、教科間や学級活動、学校行事とのつながりを十分に意識し、計画的に学習を進めていく。 ・学び合いを充実させるために、基礎基本が定着するように粘り強く指導する。そして、知識や体験をもとに児童同士が考えをつないでいく授業を目指す。	(児童アンケート) 「学校で学ぶことは、楽しいですか。」 ア 楽しい イ だいたい楽しい ウ あまり楽しくない エ 楽しくない (保護者アンケート) 「子どもは学校へ意欲的に登校していますか。」 ア 意欲的に登校している。 イ おおむね意欲的に登校している。 ウ あまり意欲的ではない。 エ 意欲的ではない。	児童アンケート・保護者アンケートともに A…ア+イが90%以上 B…ア+イが85%以上 C…ア+イが80%以上 D…それ以下	児童・・・100% 保護者・・・98%	A	(成果) ・児童全員が肯定的な回答をしており、昨年度と比較し5%程度上昇している。アンケート項目「先生は私たちの思いをよく聞いてくれる」でも、肯定的回答をしている児童が多いことから、安心して学校生活を送ることができていると分かる。 (課題と改善策) ・学校行事や委員会等の特別活動において、児童が中心となって活躍できるように、職員で共通理解を図る。 ・学習においては、基礎基本の定着のため個別指導を充実させるとともに、より一層児童の発言をつないでいく授業を目指すため、職員の研修を充実させていく。	A
	【主体的に課題解決する児童の育成】(学校研究) <u>個別最適化された学びと協働的な学びの実現を目指し、教科の学びを課題解決へとつなげることができる児童を育成する。</u>	・自分の考えを根拠を示して説明したり、記述したりできるように、教科を超え、継続的に指導を行う。 低学年では、自分の考えを根拠を示しながら口頭で説明することができるように、中学年では、口頭での説明から少しずつ記述することができるように、高学年では、何を問われているのかに気をつけながら記述することができることを目指す。	(児童アンケート) 「相手を意識し、自分の考えを根拠を入れて、わかりやすく説明することができている。」 ア できた イ だいたいできた ウ あまりできなかった エ できなかった (教職員アンケート) 「子ども達に接続詞や学習用語等を意識させ、自分の考えを筋道を立てて説明する指導がなされている。」 ア できた イ だいたいできた ウ あまりできなかった エ できなかった	児童アンケート・教職員アンケートともに A…ア+イが90%以上 B…ア+イが80%以上 C…ア+イが70%以上 D…それ以下	児童・・・92% 教職員・・・87.5%	B	(成果) ・算数科での問題に適した説明や記述の仕方を児童と共有しながら取り組むことができた。 ・算数科での取組が他教科の学習にも生かされ、自分の考えを根拠を示して説明したり記述しようとする姿が見られるようになってきている。 (課題と改善策) ・根拠を示して説明をしたり、記述をしようという意識は高いが、必要な言葉や、根拠を適切に用いることにはまだ課題がみられる。 ・児童同士の学び合いや教師の問い返しにより、自分の説明や記述を見直し、よりわかりやすいものとなるようにしていく。	B
	【家庭学習の確立】 保護者と連携し、子どもたちの家庭学習の習慣化を図る。	・音読や漢字・計算練習(高学年は自学ノート)を基本に、学年に応じた家庭学習の時間を確保する。 ・家庭学習強化週間は特に、お便り等で呼びかけを行う。また、学級懇談では、家庭学習のてびきを活用し日頃の家庭学習の取組について確認し、改善していく。必要に応じて、個別指導も行う。	(家庭学習調査結果) 家庭学習強化週間記録カードをもとにした、家庭学習の目標(低学年20分・中学年40分・高学年60分以上)達成者数 ア 80%以上 イ 70%以上 ウ 60%以上 エ 60%未満	A…ア B…イ C…ウ D…エ	めあて達成者 84.2%	A	(成果) ・家庭学習強化週間記録カードで各学年の目標学習時間を達成した児童が80%を超えていた。 (課題と改善策) ・保護者アンケートの「お子さんは家庭学習の習慣が身についてきていると感じますか。」という項目では、「あまり思わない」「思わない」につけた保護者が20%近くいた。 ・学校全体で家庭学習の取組について研究し、提案できるようにする。 ・学級懇談や学級通信を通して、家庭学習の進め方を伝え、保護者と連携して取り組んでいく。 ・家庭学習をどのように取り組んでいけばよいか児童自身に考えさせる。	B
いじめ・不登校のない学校づくり	【特別活動の充実】 学級生活や学校生活をよりよくするために、児童同士の関係作りを進め、課題を発見し、話し合い、合意形成を図り、意思決定して課題解決に向かう児童を育成する。	・学級活動において学級会活動の時間を確保する。 ・児童が自主的・実践的に取り組むことを通して、互いのよさや個性、多様な考えを認め合い、合意形成に関わる役割を担うようにする。	(児童アンケート) 「学級会で友だちの考えを聞きながら、自分の考えを話すことができています。」 ア そう思う イ どちらかと言えばそう思う ウ どちらかと言えばそう思わない エ そう思わない (職員アンケート) 「学級活動で学級会活動に取り組んでいる。」 ア そう思う イ どちらかと言えばそう思う ウ どちらかと言えばそう思わない エ そう思わない	児童・職員アンケートで A…児ア+イが90%以上かつ職アが100% B…児ア+イが80%以上かつ職ア90%以上 C…児ア+イが70%以上かつ職アが80%以上 D…それ以下	児童・・・91.4% 教職員・・・83.3%	C	(成果) ・特別活動の校内研修を行い、意義や、取り組み方を共有することができた。 ・各委員会、6年生が主体となって企画した取組が行われ、充実した時間となった。 (課題と改善策) ・校内研修会、若手の学習会を今後も設定し、委員会活動や行事を行う際にも、①「児童同士の関係づくり」②「学級生活や学校生活をよりよくするために、合意形成を図りながら、主体的に問題解決に向かう児童の育成」の二つの目的を確認しながら、継続して取り組んでいく。	B
	【規範意識の高揚】 <u>社会的なルールやきまりの意味を理解させ、大切にすることを高め、いじめや差別、暴力のない学校をつくる。</u>	・毎月、児童会を中心に生活目標を設定し、具体的にに取り組むことを通して、社会的なルールやきまりに対する意識を高める。 ・全職員が全校児童の担任であるという意識を持ち、児童の様子を観察することで、いじめの兆候の早期発見を目指す。さらに、いじめ撲滅集会などを通して、いじめや暴力行為のない学校づくりを目指す。	(達成目標) (保護者アンケート) 「学校は、いじめや暴力行為のない学校づくりに努めていると思いますか。」 ア そう思う イ どちらかといえばそう思う ウ あまり思わない エ 思わない (児童アンケート) 「児童会生活目標が守れましたか。」 ア できた イ どちらかといえばできた ウ あまりできなかった エ できなかった	児童アンケート・保護者アンケートともに A…ア+イが95%以上 B…ア+イが85%以上 C…ア+イが65%以上 D…それ以下	児童・・・90% 保護者・・・100%	B	(成果) ・毎月、児童に対していじめやいじめに関するアンケートを実施したり、児童理解の会を開いたり、職員全体で情報を共有し、対応することができた。 ・いじめ缶バッジづくりでは児童が主体となって内容を考え、いじめについて全校児童で考え、話し合うことが出来た。 ・コロナ対策において、学校全体でいじめ・差別の問題について指導した。 (課題と改善策) ・保護者アンケートの結果から、学校での取り組みが保護者に十分伝わっていない様子がうかがえる。 ・学校だよりやホームページなどで学校の取り組みをこれまで以上に発信していく。 ・ホームページの更新目標数を設定する。 ・コロナウイルス感染症に係るいじめや差別について継続して指導し、児童の心のケアに努める。	B
学校と家庭地域の連携	【自己健康管理能力の向上】 めあてを持って、自らよりよい生活習慣を実践しようとする態度を育成する。	・「早寝早起き朝ごはん」をはじめとした規則正しい生活習慣の確立を目指し、学期毎に「バランスアップ週間」を設定して取り組む。 ・各学級で「就寝時刻」「起床時刻」「メディア時間」のめあてを決め、保護者の指導を得て達成度チェックをしてよりよい生活習慣の実践を目指す。	(バランスアップカードの結果) 早起きのめあてが守られたか。(各学級でめあてを相談) ア 70%以上 イ 60%以上 ウ 50%以上 エ 50%未満	バランスアップカードで A…ア B…イ C…ウ D…エ	めあて達成者 81.1%	A	(成果) ・「バランスアップ週間」の起床時刻調査で、学級目標達成率は81.1%であった。(平日87.5%・休日74.7%) ・平日では、遅くても7時までに98%の児童が起きている。児童保健委員会で高学年を対象に休日に休日と同じ生活リズムで過ごす大切さと人は「寝だめ」ができないという内容の発表をした効果が見られた。 (課題と改善策) ・休日の起床時刻が目標よりも1時間以上遅い児童が見られる(1割) ・バランスアップ週間の前に児童保健委員会で1学期の結果を発表するとともに「生活リズムと体の成長について」の発表を行う。	A
	【家庭・地域との連携協力体制の確立】 <u>家庭や地域と学校との繋がりを大切に、PTAや学校運営協議会を中心にして協働をはかる。</u>	・地域学習を取り入れるなど、地域とつながる場を設定する。 ・学校だよりや学級だより等を通じて、学校の様子を知らせる。 ・家庭・地域とともに考えていく体制づくりをする。(学校運営協議会への参画)	(保護者アンケート) ・学校は、学校評価アンケートや学級懇談会、学校運営協議会などを通して、保護者や地域の思いを受けとめ、よりよく改善しようとしているように感じますか。 ア そう思う イ どちらかといえばそう思う ウ どちらかと言えばそう思わない エ 思わない (職員アンケート) 学習状況や学校生活の様子、担任の思い等を学校だより、学級通信、HP等で情報発信を行い、保護者との連携が図られている。 ア できた イ だいたいできた	保護者アンケート・職員アンケートともに A…ア+イが80%以上 B…ア+イが70%以上 C…ア+イが60%以上 D…それ以下	保護者・・・97% 教職員・・・100%	B	(課題) 保護者アンケートの結果は、肯定的回答の割合が高い。しかし、回答Dと未記入の人数がみられることや「だいたいできた」という教職員の意識から、学校からの情報発信、連携のあり方に課題がみられる。 (改善策) ・学校運営協議会を通して地域学習・地域人材の活用など地域の力を学校の教育課程に盛り込んでいけるようにする。 ・各種たよりについては、発信の目的や意義、内容について確認したことをもとに発行する。	B
業務改善	【業務改善】 教職員が、心身ともに健康で、明るく元気に児童と向き合うため、時間外勤務時間が月60時間を超える教員(のべ)の割合を0%以下にする。	・毎月、第3水曜日を定時退校日とする。また、個別で毎月2回マイ定時退校日を設ける。 ・週初めに予定退校時刻を設定し、週案に記載することで、時間管理を意識した働き方を推進する。 ・最終退校時刻は、19:30とする。 ・副担当制を取り入れ、業務の平準化を図る。 ・8月12日、15日～17日、4日間を学校閉庁日とする。 ・PTAの会台等で取組に対する理解を求める。	(勤務時間調査) ア:月60時間を超える教員(のべ)が0%以下である。 イ:月60時間を超える教員(のべ)が5%以下である。 ウ:月60時間を超える教員(のべ)が5%を超える。 エ:月80時間を超える教員がいる。	A…ア B…イ C…ウ D…エ	月60時間を超えた教員数 4月・・・1人 5月・・・0人 6月・・・3人 7月・・・1人	D	(課題) ・5月を除いて、勤務時間が月60時間を超える教職員がのべ5人いる。マイ定時退庁の設定、退庁時刻を考慮して業務遂行することの意識が薄かった。 ・見直しをもって提案することや各分掌との連携に課題がみられる。 (改善策) ・マイ定時退庁時刻の厳守 ・会議開始時刻・会議時間の設定の見直し、地震・コロナ対応は必要に応じて行う。 ・土日の勤務状況を把握し、働きかけていく。	C

評価: A 達成 B おおむね達成 C・D 改善が必要